

令和5年度第1回芽室町総合教育会議 議事録

日 時 令和5年8月28日(月) 16:55~17:40
場 所 芽室町役場2階会議室7

出席者	芽室町長	手島 旭
	教育委員会 教育長	程野 仁
	教育長職務代理者	鳥本 和宏
	委員	福井 栄子
	委員	松久 大樹
	委員	土井 慎悟
総合教育会議事務局	政策推進課長	石田 哲
	政策推進課政策調整係長	村上 佳子
教育委員会事務局	教育推進課長	有澤 勝昭
	教育推進課長補佐	清末 有二
	生涯学習課長	江崎 健一
魅力創造課	魅力創造係長	大石 秀人

議事録

1 開会

要綱第4条に基づき、町長が議長になり進行

2 議題

(1) まちなか再生ビジョン(案)について

魅力創造課大石係長から、資料に沿ってビジョン案について説明。

手島町長

まちなか再生については、大きな課題としてとらえており、20年後のまちなかの姿をどう考えるか、ということで進めている。今のタイミングで考えないと、将来実現することができない。まちなかの定義は、商店街だけでなく、まちなか全体を活性化する、ソフトやハード両面、芽室公園も含めてまちなかという区域わりをして、議論を始めている。教育委員の皆様にも情報提供をさせていただき、ご意見もいただき参考にしたい。忌憚なくご意見いただけたら。

役場だけでなく、団体や町民も、何ができるか何をしたいか自分事としてとらえてすすめていきたい。一緒にやっていきたい。共通認識をもって進めている。

松久委員

まちなか「再生」という言葉を使った意図は？新しく作るのではなく、再び生かすという言葉を使う意味は？

手島町長

皆さんの年代だと分かるかと思うが、昔駅前に商店がありすごく賑わっていた。自分も帯広から買いに來たりしていた。その時は、商店街を中心に人が集まっていた感覚がある。そこに単純に戻ろうとしても、今の現状からしたら難しい。商店街や中心市街地活性化ではなく、もう1回まちなかを考えてみよう。例えば魅力的な店ができれば人が集まるかもしれないが、それではない賑わいの求め方もあるのではないかという発想。再生を使った意味というのは、前にあったような商店でにぎわっていたところではない形でまちなかを活かそうということでまちなか再生という言葉を使った。昔に戻そうとしているわけではない。まちなか再生については、商工関係で商工労政課はもちろん、魅力の発信ということで魅力創造課、政策や予算というところで政策推進課の3課で、トップは理事者直接という体制でこの問題に取り組んでいる。3課ともに役割はあるが、基本的な考え方は3課同じ。商店会活性化策についても、今年度から新たに業を起こす人に対して創業支援に係るお金を出す事業を今年度からスタートしている。

まちなかの範囲についても議論があった。起業支援で言えば、まちなかの範囲の中の人には200万円、範囲外の人にも100万円出してまちなかと連携して力を入れていこうとしている。極論を言うと農村地域の方が郊外で何かをやっても100万円は支援できる形にしている。

鳥本委員

芽室高校生は大成駅があるので、まちなかに寄りづらい。大成駅をなくして芽室駅から通う形になればまちなかに立ち寄ってくれると思うがそうはいかないと思う。まちなかの範囲は、自分が思っていたよりは広いが、芽室公園や体育館など、芽室駅から歩くには遠い。ふらっと来た人でも移動できるような、自動車のレンタルなどの方法もあるのではないか。

手島町長

資料P24にも記載しているが、町内小中高校やジモト大学の動きなども絡めて、ソフトでまちなかにもってこれないかを検討している。まちづくりに高校生が入ってきてくれている実態もある。芽室高校は、大成駅から芽室町より来たことがない生徒も多い。芽室高校生に芽室町市街地に来てもらう方策も必要。パイプを広げていきたい。

まちなか再生の範囲も、芽室公園と駅周辺をどうつなげるか。例えば帯広でやっている馬車バーのように観光目的で馬車を通すとか、冬場で本通にイルミネーション通を作って歩いてもらうなども考えている。芽室公園もプロジェクトの1つに入っているが、遊具を充実させるなど人を集めて、集まった人をまちなかにどう連携させるか、嵐山にどう連携させるかも考えたい。公園を発信するプロジェクトも頑張っていたきたい。全部町がやるわけにはいけないので、民間の力を借りられないかどうかも考えていく。

鳥本委員

8月の花火、良かったと思う。駐車場が難点。大きいイベントでの、車の管理が解決すればいいと思う。

福井委員

駅前の菓子店が火事で焼失してブルーシートがかけられている状況。元協力隊が起業したり、Uniteの活動など変わっていくと思うが、今回の火事があり、駅前はどうなるんだろうという懸念がある。昨日Uniteのイベントがあり顔を出したが、ベーグル屋さん、トウテルさん、コーヒー等

があり、中には北広島から来た方もいた。ポップアップストアで趣味を生かした1日限りのお店も流行っている。短期間だからこそ人が集まるお店の立ち上げ方もあるのだと思いながら見ていた。8月の花火は子どもたちの参加もあった。花火の時間帯は車通りが多く、パトカーも巡回していた。イベントをすると人は集まる。まだ何かできそうということは感じている。

手島町長

夢を持っている人を応援するような取り組みというところで、これまで何かやろうとしても相談窓口がはっきりしていなかったのが、まちなかチャレンジ相談窓口を作った。魅力創造課から説明させていただく。

大石魅力創造係長

5月1日から、まちなかで何かやってみようという方がいらっしゃった場合、魅力創造課が窓口として相談を受けている。空き店舗の情報はいいかということや、イベントの検討、今後まちなかでこういうことをやってみようなどの相談を受けている。お店の方は空き状況を聞いているがいいですよと言われるところがなくお答えできていないが、今後まちなか再生3課で空き店舗・空き家・空き地の情報を整理することで話を進めている。

手島町長

空き家については、今いる方の意向を聞く調査もこれからやろうと思っている。まちなかチャレンジ相談窓口では、空き家情報や町の支援、町以外の支援なども含めて相談を受け、深く関わって（やりたいことを）スタートできるようにしていく。

また、高齢で事業の後継者がいない問題についても、支援する企業に入ってもらい、ホームページなどでPRをして全国に公表して進めてくれるような仕組みも今年から始めている。地域の人も、そういう人を受け入れる度量も必要になり、大事な視点になるかと思う。

土井委員

芽室公園を上手く活用したらいいと思う。公園に、若い世代、子ども世代が集まると親も来るし、おじいちゃんおばあちゃんも来る。足寄規模の公園があると、ここは帯広にも近く立地条件いいので、人が集まるのではないかと。イベントもいいが、1つ目玉の物があると長期的に人が訪れる状況になるのではないかと。

スイートコーンが芽室町日本一ということを出ているが、加工と生食合わせて日本一ということだが、生食は今年で生産組合で10軒くらい減っており、加工の方も肥料や燃料代の高騰で採算が合わず微妙になっている。一農家としても持続的に日本一という状況を続けていけたらいいが、農家も頑張らないといけないと思うが、農協などと話して日本一を守り続ける努力も必要だと思うので、連携してやっていただきたい。

手島町長

公園については、環境土木課でこれからビジョンを作ろうとしている。その中には遊具や駐車場の話が出てくると思う。積極的にやっていきたい。

土井委員

足寄の公園は、遊具や水や足湯があり、3世代が1日楽しめるようになっている。

手島町長

規模は違うが、忠類の公園などもイメージをもっている。

スイートコーンについては、辞めている人がいる話は聞いている。魅力創造課は生産日本一だからとどんどん進めていくし、ふるさと納税もコーンをすごく売るが、やれる量は限られているので、全体量を確保した上で色々やらなければならない。

鳥本委員

コーンは短期集中で保存がきかないので。

手島町長

生食が特に減っている。サイズも一定程度ないとだめとなってきている。せっかくコーン日本一でうっているのでできるだけ継続していけるよう、農家さんもコストの絡みもあるので考えるところもあると思うが、農協さんや生産組合さん、コーンについては特に地域ブランディングを行っているので生産組合さんにもお話をかけていかないとだめだと思うので、お話していきたい。これからの（まちなか再生）プロジェクトについては、役場だけでなく連携団体にも協力いただいてプロジェクト化して進めていく。また進捗あれば情報提供していきたい。

17:40 閉会